

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 6月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2771000557
法人名	医療法人 博悠会
事業所名	グループホームさくらんぼ中島
所在地	〒555-0041大阪市西淀川区中島1-14-21 (電話)06-6476-4700

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年6月5日	評価確定日	平成21年7月10日

【情報提供票より】(平成21年5月17日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年12月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 19 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 21.4 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	49,500 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 500,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要(5月17日現在)

利用者人数	26 名	男性	5 名	女性	21 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	名取病院、なとりクリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人博悠会が運営する当該グループホームは、西淀川区の西部、中島川と神崎川の間に立地し、会社の寮を改装して開設された3階建てのホームです。法人の理念を基に「一人ひとりが大切だから(共に生きる)」という介護目標を掲げ、利用者、家族、地域、職員が協力しながら、中島という新しい地域で利用者が自分らしく生活できるようにネットワーク作りに取り組みられています。地域との関係を構築しながら、利用者を家族として大切に生活を支えていく実践を心がけています。また、重度化していく利用者もいる中で、一人ひとりがその人らしく安心して過ごせる医療面での医療連携のバックアップ体制も構築されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を活かし、金銭管理について利用者一人ひとりに出納帳を作成し、領収書を返却して家族に確認印やサインを取られるように改善しています。利用者一人ひとりの外出支援頻度表を作成し、少しでも利用者の希望に添って外出が増やせるようにこの思いで前向きに取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員に意見を聞きながら、ユニットリーダーがまとめ、管理者と話し合いながら作成しました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族、自治会長、婦人部長、地域包括支援センター職員、施設長、副施設長をメンバーとして2ヶ月に1回、開催しています。利用者の健康状態や利用者、職員の活動内容、現状報告、事故報告、退職報告等を話をして質問や要望を家族から多く声を聞かせてもらっています。地域から防災の協力を得るなど、有意義な会議となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付箱を設置しています。また、家族会や運営推進会議、来訪時に意見や苦情を聞き、職員会議で話し合いながら改善に向けて検討し、家族会や運営推進会議に報告しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会長を始め地域は団結力があ、ホームへの理解と協力が得られています。地域主催のお花見の参加や月1回のふれあい喫茶等、小学校の行事に活発に交流しています。また、ホーム主催の夏祭りやバザーにも多くの参加と協力を得ています。また、将棋の対局相手として老人会、将棋の会より来訪して頂くなど、活発に地域との交流を図られています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、「一人ひとりが大切だから(共に生きる)」というホーム独自の介護目標を掲げています。また、「利用者、家族、地域、職員が協力しながら、中島という新しい地域で自分らしい思いを大切に生活ができるネットワークに取り組みます。」という目標も、昨年度から継続して現実の生活をしっかり支えていくために具体的に考えられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に法人の理念と介護目標を唱和しています。利用者を家族の一人と思い、利用者の思いや自由な行動を大切に、日々のケアの中で理念に立ち戻り、全職員で考えながら実践しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長を始め地域は団結力があり、ホームへの理解と協力が得られています。地域主催のお花見の参加や月1回のふれあい喫茶、小学校の行事にも活発に交流したり、ホーム主催の夏祭りやバザーにも多くの参加と協力を得ています。また、将棋の対局相手として老人会将棋の会より来訪して頂くなど、活発に地域との交流が図られています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員に意見を聞きながら、ユニットリーダーがまとめ、管理者と話し合いながら作成しました。前回の評価を活かし、金銭管理について利用者一人ひとりに出納帳を作成し、領収書を返却して家族に確認印やサインを取られるように改善しています。また、利用者一人ひとりの外出支援頻度表を作成し前向きに取り組んでいます。	○	職員全員が自己評価について理解できるように取組み、計画改善シートを活かし、目標達成の取り組みの計画を立て、優先順位を付けてできることから取組みたいはかがでしょうか。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、自治会長、婦人部長、地域包括支援センター職員、施設長、副施設長をメンバーとして2ヶ月に1回開催しています。利用者の健康状態や、利用者、職員の活動内容、現状報告、事故報告、退職報告等を話をして質問や要望を家族から多く声を聞かせてもらっています。地域から防災の協力を得るなどサービスの向上へ繋げています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所担当者に事故などの報告には行きますが、困難事例等の相談は社会福祉協議会へ行っています。	○	区役所の担当者とも日ごろより行き来する機会や、相談できる関係を築いていかれることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会や来訪の際に日々の利用者の様子健康状態等を報告したり、請求書や写真と共に郵送しています。預かり金については、出納帳を作成して家族に確認してもらおうと共に領収書を返却し、確認印やサインをもらっています。職員の異動等は家族会で報告しています。	○	ホーム独自の季刊紙「なかよし通信たより」が途絶えている事もあり、ホームの行事の予定や利用者一人ひとりの日々の暮らしぶりを些細な内容でもお手紙にされ、笑顔の写真等を添えられて、送られてはいかがでしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を設置しています。また、家族会や来訪時に意見や苦情を聞き、運営推進会議に報告したり、話し合いながら運営に反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	状況に応じて離職する者が挨拶をしたり、新しい職員には馴染みの職員が協力して利用者のダメージの軽減を図っています。施設長がミーティングの際や食事をしながら、職員の話ができる限り聞いて、ストレスをためないように心がけ、離職を最小限になるように努めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や外部研修に参加し、報告書の回覧や伝達研修で報告しています。法人内での看護、介護の勉強会を月1回定期的に行われ、出来るだけ参加できるように勤務を配慮しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回、大阪市のネットワークグループホーム連絡会の相互研修に参加しています。また、区内のグループホームと職員は交換研修の交流を図り、気づきや情報の場としています。2～3ヶ月に1回、定例会に施設長が参加しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者の自宅を訪問し、生活歴等の情報を家族から得たり、利用者の観察をしながら、利用者が安心できるような環境作りに工夫をしています。見学時にお茶を飲んで頂きながら、ホームの雰囲気に馴染んで頂いたり、体験利用の支援もしています。また、入居後には家族と連絡や協力を得ながら、徐々に馴染むことができるように支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験の豊かな利用者から学ぶことが多く、昔の言葉の意味を教えて頂くなど共に暮らしていく中で教える機会があります。また、一緒に時間を過ごす中で、テレビを見ながら会話を楽しんだり、喜怒哀楽を自然に出しながら関係作りを楽しんでいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から得た情報の生活歴等のフェイスシートや利用者とのコミュニケーションの中から何を求めているかを汲み取ったり、困難な利用者には表情や行動等、利用者の立場に立って把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回、グループホーム協会のフォーマットを活用しながら、利用者、家族の意見や要望を聞き、職員の意見を出し合いながら、介護計画を作成しています。介護記録に試行錯誤しながら、センター方式の生活リズムパターンシートを活用し1週間ごとの評価をしています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回モニタリングを行ない、6ヶ月に1回家族や医師、看護師と健康状態を相談しながら、介護計画の見直しをしています。利用者の状況に変化があった場合には、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別支援に食事や買い物の要望に応じたり、将棋好きの利用者の将棋大会に職員と一緒に付き添って行くなど、柔軟な支援をしています。また、受診の際には同行の支援もしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者、家族の意向を聞き、かかりつけ医を決めています。かかりつけ医は法人の母体である病院から、ほぼ、毎日のように医師の往診があります。歯科医も利用者の必要に合わせた往診があり、週に1回病院から訪問看護師が来訪し医療連携が取られています。また、副施設長が看護職であることで安心できる体制が構築されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化に向けての看取り指針の説明をし、家族の意向に添った上で同意を得ています。法人の母体である病院の理解もあり連携がとりやすく、家族や医師、看護師、職員を交えて話し合いを繰り返しながら方針を共有し、ケアをしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねないよう考慮した対応に心がけ、言葉使いには充分に気をつけており、特にトイレ等の羞恥心を配慮するケアを実践しています。また、管理者は職員のコミュニケーションの様子を観ながら、不適切な言葉遣いがみられた場合にはその都度注意しています。個人情報の記録物等はユニットごとに適切に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを把握し、個々に合わせた柔軟な対応に心がけています。また、利用者の意向に合わせて、タイミングを見ながら声をかけ、その人らしく過ごせるように支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は隣接する法人の配食サービスより提供されていますが、週に1回調理実習日として、食べたい献立の意向を利用者から聞き、メニューを決めて、利用者と一緒に調理の味見や盛りつけ、食器拭き、片付け等を行っています。また、同じ食卓で楽しく会話をしながら利用者と職員が食事をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めず午前中に、利用者一人ひとりに合わせて支援をしています。重度の方が増える中、状態に応じてミストシャワー浴や足浴対応をしています。入浴を拒否される利用者には無理強いせず、声をかける職員を替えてみたり、タイミングを図り、ゆっくり気持ちよく入浴して頂いています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かし、玄関前広場の花や植木に水やりをしたり、台所仕事や食器拭き、洗濯物たたみ等できる範囲で役割として職員と一緒にしています。また、三味線を披露したり、将棋の対局相手に来てもらう等、楽しみ事を支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の重度化が増えている中、利用者一人ひとりの体調や状況を見ながら、天気の良い日は近隣の公園やお寺に散歩に出かけたり、玄関前の広場でベンチに座って季節の花やイチゴ等を見ながら、おやつを食べたり、日光浴をしています。外出支援表を作成し、利用者一人ひとりが偏らずに少しでも出かけられるよう心がける支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉、玄関、2、3階ユニットフロアの入り口は鍵を開放しています。1階ユニットの入り口は、利用者の状況によっては安全面を考慮し、家族の了解を得て鍵をかけています。職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、出たそうにされている利用者には職員と一緒に付き添って外に出たり、玄関フロアのソファや玄関の広場のベンチでゆっくり話をしたりしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署と昼夜想定で消火器の使い方等、避難訓練を行っています。災害訓練も町会のマニュアルや災害の協力を盛り込んで頂いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた栄養バランスの考えられた食事献立が提供され、毎食時、食事摂取量や水分摂取量をチェックし記録に残しています。利用者一人ひとりの体調や状態に応じて刻みやミキサー食に対応しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は全て明るく広く、ゆったりとできる場所があります。各ユニット毎に利用者の状況に合わせた食卓やゆっくりと過ごせるソファの配置に工夫をしたり、居室の表札を利用者や家族、職員が手作りで作り、トイレやお風呂等の場所が解るように工夫をしています。また、利用者の作品や季節の花、観葉植物が程良い間隔で飾られ、一人ひとりが心地よく過ごせる場所になっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はゆったりとしたスペースの中で畳やカーペットを敷いたり、利用者一人ひとりの使い慣れた馴染みのタンスやイス、ベット、テレビ、ドレッサー、ソファ、テーブル等、多くの家具が配置され、家族の写真を飾ったり、時計等空間づくりにも工夫をし、居心地良くその人らしい居室になっています。		